

報道関係各位

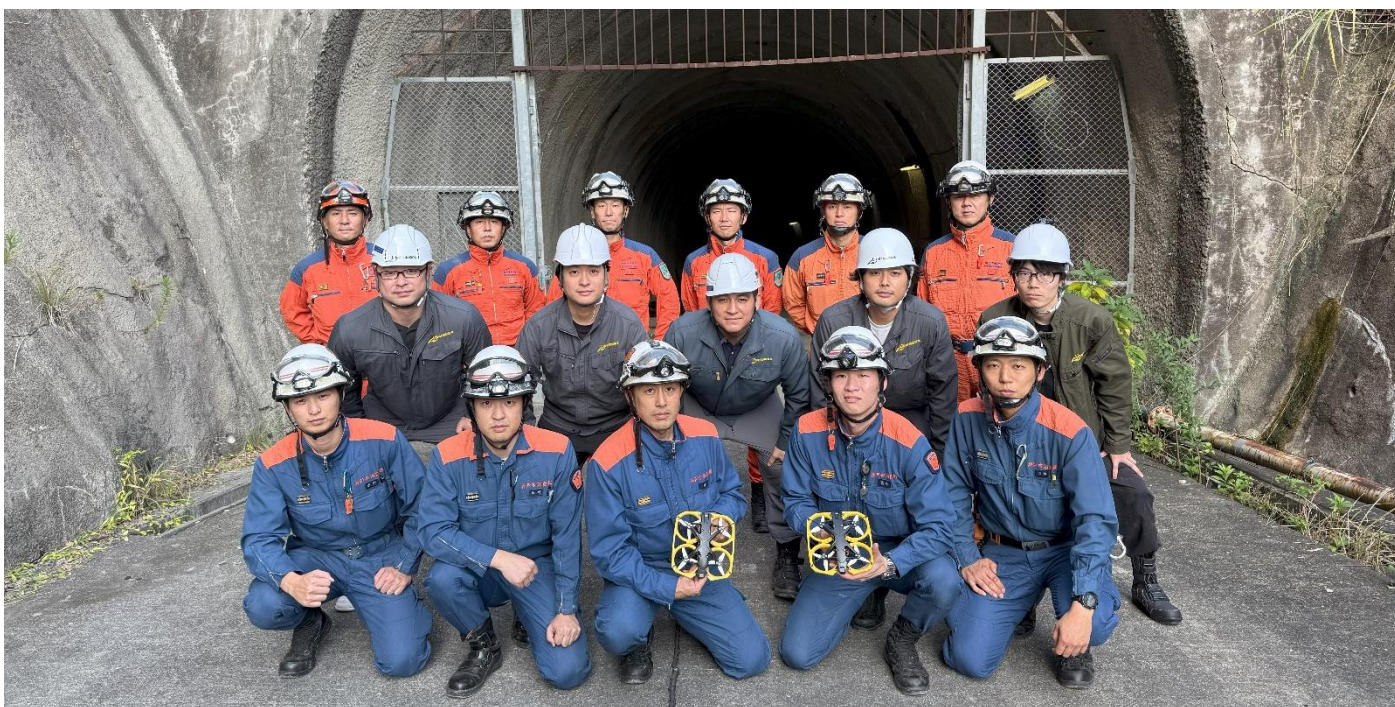
プレスリリース

2024年11月13日

株式会社 Liberaware

神戸市消防局と合同でトンネル内での要救助者捜索・救助訓練を実施 ～災害想定シーンにおいて安全性を担保しながら短時間での状況把握に成功～

株式会社 Liberaware（本社：千葉県千葉市、代表取締役：関 弘圭、以下「当社」）は2024年11月5日、神戸市消防局と合同で要救助者の捜索・救助活動の実動訓練を実施しました。本訓練では、特異な構造を持つ施設内での事故を想定し、当社の小型ドローン「IBIS2」を活用した現場状況を迅速かつ安全に把握する検証を行いました。



■訓練の目的

神戸市消防局が擁する本部機動中隊第1係と当社が連携し、閉鎖空間や視界不良環境下での救助活動においてドローン活用の検証を進めることを目的としています。トンネル内での暗所かつ危険性の高い現場で、ドローンの機動力を活かし、要救助者の迅速な捜索・救助に向けた手法を構築することを目指します。

■訓練概要

本訓練は、神戸市内のトンネルにおいて実施されました。当日は、現場環境や災害リスクを把握するため、消防局の指示のもと、以下の訓練内容を実施しました。

- ・ドローンによる現場の事前調査と状況確認：ドローンを先行投入し、内部の安全確認を実施。救助隊の入場前にリスクを低減する役割を果たしました。
- ・救助シミュレーション：当該ドローンで負傷者を発見し、神戸市消防隊が救助活動を開始。高所での救助活動の効率性向上に加え、特殊な構造を持つ施設での迅速な対応を行いました。

■訓練結果

ドローンを活用した閉鎖空間での要救助者捜索は、効率的かつ迅速に実施され、要救助者の発見までの所要時間は13分という迅速な成果が得られました。従来の方法では確認が難しいトンネル内構造を短時間で把握し、救助隊の安全な進入を確保することができました。

また、神戸市消防局からは、今回の訓練を通じ、当社ドローン「IBIS2」が狭小空間での災害対応に有効であるとの高評価を頂いています。飛行準備から救助対象者の発見までの時間が短く、安全性の向上にも貢献したことが実証されました。



大規模空洞内での飛行



トンネル奥で倒れている人を発見する様子

■今後の展開

本訓練で得られた知見を基に、当社は神戸市消防局との連携をさらに強化し、災害発生時におけるドローン技術の活用範囲を拡大する予定です。また、当社の小型ドローン「IBIS2」を用いることで、他の自治体や企業とも連携し、閉鎖空間での救助活動における新たな技術基盤を提供してまいります。

本件は当社の成長戦略に沿った自治体との連携強化の一環として位置づけており、今後も神戸市をはじめとした各自治体と更なる連携を進めてまいります。

▼株式会社 Liberaware について

株式会社 Liberaware は、「誰もが安全な社会を作る」をミッションに掲げ、世界でも珍しい「狭くて、暗くて、危険な」かつ「屋内空間」の点検・計測に特化した世界最小級のドローン開発と、当該ドローンで収集した画像データを解析し顧客に提供するインフラ点検・維持管理ソリューションを行っております。弊社は、ビジョンでもある「見えないリスクを可視化する」ことに邁進し続け、人々に安全で平和な社会をお届けします。

会社名：株式会社 Liberaware（リベラウェア）

代表者：関弘圭（ミン・ホンキュ）

所在地：千葉県千葉市中央区中央 3-3-1

設立：2016年8月22日

事業内容：・産業分野に特化した非GPS型小型ドローンの開発

- ・IoT技術・人工知能を活用したシステム開発
- ・小型ドローン「IBIS」を活用した点検・測量ソリューションサービス
- ・小型ドローン「IBIS」の販売・レンタルサービス
- ・映像加工・編集サービス（距離計測、異常検知等）

URL：<https://liberaware.co.jp/>